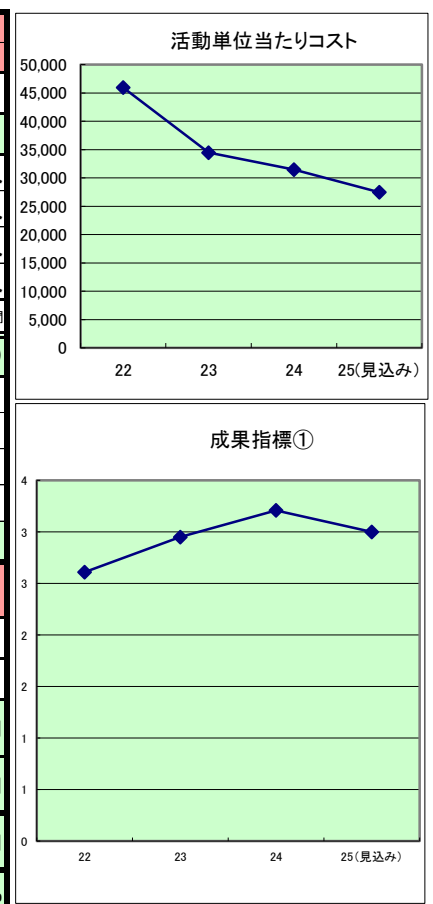


事務事業名		シルバー人材センター助成事業		会計 1 一般会計 款 3 民生費 項 1 社会福祉費 目 2 社会福祉事業費 事業 31 社会福祉対策（高年介護課）	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	2	健康で生き生きと暮らせるやさしいまち		
	施策(節)	3	高齢者福祉		
	施策の方向	(2)	高齢者の健康づくりの促進		
関連する計画等		羽曳野市高年いきいき計画		作成部署	保健福祉部福祉支援課
				(連絡先)	072 - 958 - 1111 内線 1213
事業の概要（目的・内容）		公益社団法人羽曳野市シルバー人材センターに対し、人件費名目で運営費の一部を補助することにより、高齢者の就労機会の充実を図り、外郭団体の健全運営を支援するもの。			
根拠法令等		高年齢者等の雇用の安定等に関する法律、羽曳野市補助金交付規則、羽曳野市高年齢者労働能力活用事業費助成金交付要綱			
事業期間		☒ 10 年以上 ☐ 5 年以上10年未満 ☐ 5年未満（平成 年度開始）			
事業開始時からの状況変化		平成21年度から事務費等を含めた運営費部分の助成を除く人件費分に特化して助成することで事業費規模の縮減を図った。さらに、平成24年度から27年度にかけて縮減を図った。法人法等の改正により、公益法人移行申請を行い、認可を受け平成23年4月1日より法人格を変更。			
実施手法		☐ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☒ 補助金・助成金 ☐ その他（ ）			
委託先		☐ 市外郭団体委託 名称（ ）		委託内容	
		☐ 民間委託 ☐ その他			

区 分		22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (実績)	25年度 (見込み)
事業費【1】		(千円) 48,547	33,123	28,757	27,194
人件費【2】		(千円) 936	288	276	276
職員数	正規職員	0.13 人	0.04 人	0.04 人	0.04 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	0.00 人
超過勤務(参考)		(時間) 0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費【(1)+(2)】【A】		(千円) 49,483	33,411	29,033	27,470
財源内訳	国庫支出金	(千円) 0	0	0	0
	府支出金	(千円) 0	0	0	0
	市債	(千円) 0	0	0	0
	その他（使用料・手数料等）	(千円) 0	0	0	0
一般財源【B】		(千円) 49,483	33,411	29,033	27,470
活動指標【C】		22年度	23年度	24年度	25年度 (見込み)
① 会員数		人 1,077	970	923	1,000
② 契約件数		件 2,815	2,869	2,959	3,000
活動単位当たりコスト （【A】÷【C】①）		45,945 円	34,444 円	31,455 円	27,470 円
活動単位当たり一般財源額 （【B】÷【C】）		45,945 円	34,444 円	31,455 円	27,470 円
市民1人当たりコスト （【A】÷人口）		419 円	285 円	249 円	237 円
一般財源【B】の推移（前年度比）			▲ 32.5 %	▲ 13.1 %	▲ 5.4 %
※前年度比5%以上変動している要因（該当する場合のみ ☒) ※該当項目すべてに ☒		☐ 1. 制度改正・事業の見直しなど ☐ 2. 左記1によらない対象件数などの増減 ☐ 3. 物価・賃金水準などの変動 ☐ 4. 国庫支出金など特定財源の増減 ☒ 5. その他（平成22年度以降市職員派遣の段階的引き上げ、平成24年度以降で市助成額の縮減）			



成果指標 (事業の達成度 を測る指標)	指標名			平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	①	平均一人当たり契約件数	件	目標	3.00	2.63	3.21	達成率(%)	3.00		
	(式又は説明) 契約件数÷会員数			実績	2.61	2.95	3.21	100.0%			
	②			目標				達成率(%)			
	(式又は説明)			実績							

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有
						○	○		○	

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い（事業の拡充・継続の要望がある、又、活動指標が増加傾向にあるなど）	☒	☐	☐	高齢化社会において、高齢者の就労機会を充実させることは、自立した高齢者を増加させるためにも重要な施策であるものの、市からの助成についてはシルバー人材センターの決算状況等を考慮しながら、一層の助成金の縮減を図り主体的な自主採算性による事業運営を支援していく必要がある。
		市民ニーズと比較してサービスの対象範囲や水準が適切か	☒	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☐	☒	☐	
		事業を縮小、又は廃止・休止した場合の影響度が大きい	☐	☒	☐	
	効率性	活動単位あたりコストが適切である（経年比較など）	☒	☐	☐	シルバーの会員は年会費3,000円を支払っており、受益者負担の割合は適当と考える。運営効率を向上させるため、必要に応じて事務局を監督・指導し、事業費の削減を図る余地はある。
		使用料・手数料等の受益者負担の割合は適当である	☒	☐	☐	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☐	☒	☐	
		国・府の事業や市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
市の他事業との統合や、事業の簡略化の余地がない		☒	☐	☐		
民間活力（民間委託、NPO・ボランティアなど）の活用について検討の余地がない（すでに活用しており、拡大の余地はないを含む）		☒	☐	☐		
協働性	事業の企画や実施にあたり、市民の意見を反映しているか、又、参加、協力が得られているか	☐	☐	☒	市および国からの助成によってセンターの円滑な運営が確保されており、地域の活性化と高齢者の生きがいづくりへの貢献度は高い。	
有効性 達成度	成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐	会員の平均契約受注件数もほぼ横ばいであるものの平成24年度において達成率も高く、適正である。	
	成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐		

担当 部局 評価	総合評価	
	☐ 継続 ☐ 改善 ☒ 縮小 ☐ 廃止・休止 （概ね現行どおり継続して実施） （実施方法の改善を検討する） （事業規模の縮小を検討する） （廃止・休止を検討する）	
	今後に向けて（取組方針・具体的な改善改革案など） 市からの助成については、シルバー人材センターの決算状況等を考慮しながら、一層の助成金の縮減を図りつつ、シルバー人材センターの主体的な自主採算性による事業運営を支援していく。	
行 革 本 部 評 価	総合評価	
	☐ 継続 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止	
	評価理由・意見	